

プレスリリース

2025/8/1

佐賀大学美術館 企画展

「触れる、手繰る手つき」

2025 年 10 月 3 日（金）～11 月 30 日（日）



【会 期】2025 年 10 月 3 日（金）～11 月 30 日（日）

【会 場】佐賀大学美術館 ギャラリー1、ギャラリー2、スタジオ

【開館時間】10 時～17 時（入館は 16 時 30 分まで）

【休 館 日】月曜日（祝日の場合、翌火曜日休館）

【観 覧 料】無料

【主 催】佐賀大学美術館

【同時期開催の展覧会】

「SUAM/ROOT Vol.3 遠藤夏香 -景色を知る／地図をなでる-」

2025 年 10 月 3 日（金）～2026 年 2 月 15 日（日）

「第 4 回なんでそんなんエキスポ 佐賀」

2025 年 11 月 1 日（土）～2026 年 1 月 25 日（日）



概要

「わたしたちは日々、様々な情報に触れている。」この一節を読んだ時、どのようなものを日々触れている情報と捉えるでしょうか。

現代の私たちの日常は、インターネットの発達により世界中の人とつながることが容易になり、訪れることのできない場所で起きている出来事をリアルタイムで知ることができるようになりました。一方で、SNSをはじめとした視聴覚情報にその多くの割合がとられていると感じる人も多いのではないのでしょうか。自らの身体を通した「一次情報」としての経験が希薄になってしまう時代に私たちは生きているとも言えるかもしれません。本来確かなものであるはずの一次情報としての感覚や経験に不確かさを感じ、他者と異なることに不安や焦りを感じてしまうのかもしれません。

本展では「触れる」をテーマに、様々な表現者のその手つきをたどります。美術家や工芸家自身も素材や道具、または歴史や記憶といった対象に「触れる」という感覚から創作が発案すること多いことでしょう。そして、それは私たちの感覚にも通じるため、時に心動かされ、言語化しにくい原初的な感覚を引き起こすのかもしれません。また、「触れること」は身体的接触だけではなく、自己の内面、感情や記憶、または歴史や文化など形を持たないものに向き合うことでもあります。それは感覚を頼りに自らのもとへ手繰り寄せる行為であり、自己や他者、そして世界との実感を伴った向き合い方につながるはずです。多様な側面から私たちの感覚、そして創造力を通して物事に触れることについて考えるきっかけとなることを目指します。

関連イベント

①『NAIZOU クッション』にみんなで触る人魚集会

講師：ブブ・ド・ラ・マドレーヌ、チーム NAIZOU

日時：2025 年 10 月 4 日（土）13 時～14 時 30 分

会場：佐賀大学美術館

対象：どなたでも（小学生以下は保護者同伴）

参加：無料

申し込み：事前申込制（TEL 0952-28-8333）

②佐賀錦手織り体験

講師：佐賀錦振興協議会

日時：2025 年 11 月 14 日（金）～16 日（日） 10 時～16 時

※最終日のみ 15 時まで

会場：SUAM PLUS 1 階

対象：どなたでも（小学生以下は保護者同伴）

参加：無料

申し込み：不要、当日会場にお越しください

②ことばで触れる、かたちの世界 一手で鑑賞するワークショップ

講師：＜ミルミルつながるプロジェクト/メノキ×JINS＞

一般社団法人メノキ 代表理事 三輪 途道、一般社団法人メノキ 副代表理事

福西 敏宏、株式会社 ジンズ 地域共生事業部 秋本 真由美

日時：2025 年 11 月 22 日（土）13 時～14 時 30 分

会場：SUAM PLUS 1 階

対象：高校生以上（見える人・見えにくい人・見えない人、どなたでも参加可能です）

参加：無料、定員 20 名

申し込み：事前申込制（TEL 0952-28-8333）

③担当学芸員による展覧会解説

日時：2025 年 11 月 16 日（日）13 時～14 時

対象：どなたでも

参加費：無料

申し込み：不要、当日会場にお越しください。

作家紹介

榎本浩子 ENOMOTO Hiroko

群馬県生まれ。女子美術大学大学院美術研究科修了。日々の出来事を題材に、弱さや傷つきやすさとその修復をテーマに制作や活動を行なっている。主な活動歴に『庭の記憶／土地の修復』（2023年、Art & Garden ねこぜ、大分）、『クリテリウム 99 榎本浩子』（2022年、水戸芸術館 現代美術ギャラリー、茨城）、『この庭』（2022年、ゆいぽーと、新潟）がある。



左 図2 《いとちゃんのいるところ》 2025年、5.5×10.0cm、陶器



右 図3 「クリテリウム 99 榎本浩子」 2022-2023年 水戸芸術館現代美術ギャラリーでの展示風景 撮影：天野祐子 写真提供：水戸芸術館現代美術センター

木下由貴 KINOSHITA Yuki

1986年佐賀県生まれ。多摩美術大学絵画学科中退。佐賀県在住。自然物を信仰の対象とする自然崇拝や神話への関心から各地を巡り、自身が持つ形のない信仰心や内在する原風景と結びつく光景を撮影している。人が潜在的に抱く目に見えない祈りや信仰のはじまりを捉える試みを続ける。主な展覧会に「林良二 | 木下由貴 | 二人展」（2024年、武雄市文化会館、佐賀県）、「Local Prospects 3 原初感覚」（2017年、三菱地所アルティアム、福岡県）、「淵と瀬」（2017年、金子ビル、福岡県）、「内在の遠景」（2014年、福岡市内4会場、福岡県）など。



左 図6 《無題》〈内在の遠景-光-〉より 2024年、発色現像方式印画、29.8×37.2cm、作家蔵



右 図7 《無題》〈内在の遠景-光-〉より 2024年、発色現像方式印画、29.8×37.2cm、作家蔵

佐賀錦振興協会 SAGANISHIKI SHINKOKYOGIKAI

佐賀錦は1993（平成5）年に佐賀県より「伝統的地場産品」の指定を受け、さらなる普及や後進の育成を目的として「佐賀錦振興協会」が設立。現在、佐賀市歴史民俗館・旧福田家を拠点に初心者講習会を実施している。



図8 佐賀錦振興協会

ブブ・ド・ラ・マドレーヌ BuBu de la Madeleine

1961年大阪市生まれ。京都市立芸術大学美術学部構想設計専攻卒業。1992年にダム・タイプでの活動を開始。メンバーとしてパフォーマンス《S/N》（1994-96年、15ヶ国20都市を巡回）に出演後、様々なメディアによる作品を発表。同時にHIV／エイズとともに生きる人々やセックスワーカー、女性、セクシュアルマイノリティなどの健康と人権に関する市民運動に携わる。また、クラブシーンでドラッグクイーンとしても活動。近年の主な展覧会に「人魚の領土―旗と内蔵」（2022年、オオタファインアーツ、東京）、「花粉と種子」（2024年、オオタファインアーツ7CHOME、東京）、「コレクション2 身体——身体」（2024年、国立国際美術館、大阪）など。主な収蔵先に、国立国際美術館（大阪）、東京都現代美術館。



左 図9《瀬戸内海001》水図プロジェクトより 2012年、帆布にアクリル、鳩目、212×412cm、作家蔵、撮影：林口哲也



右 図10 展示風景 ブブ・ド・ラ・マドレーヌ個展「人魚の領土―旗と内蔵」オオタファインアーツ、東京（2022年）、国立国際美術館蔵、撮影：鐘ヶ江欽一、© BuBu de la Madeleine. Courtesy of Ota Fine Arts.

メーガナ・ビシニア Meghana Bisineer

1978年インド生まれ。アーティスト、キュレーター、教育者。アニメーション、インスタレーション、パフォーマンス、儀式的な実践など、多様な表現を横断しながら活動している。彼女の作品は、風景や場所に結びついた「時間」や「記憶」のあり方を身体的に探るものであり、個と集団、精神性と政治性の境界をゆるやかに溶かすような没入的な体験を生み出している。現在は、サンフランシスコのカリフォルニア芸術大学においてアニメーションおよび大学院ファインアートの准教授を務めており、アメリカ、インド、イギリスを拠点に活動している。実験的アニメーションのサロン「Eyewash」の共同キュレーターであり、シエラ・フットヒルズに拠点を置くアーティスト・レジデンシー「Upstream」の設立者でもある。



左 図11 《悪しきヤントラ 残酷なマントラ》 2023年、シングルチャンネルビデオ・音声、3分00秒、ミクストメディア・アニメーション、作家蔵



右 図12 《ムドラ（愛されることへの渴望）》 2023年、シングルチャンネルビデオ・音声、2分48秒、窓にインクで描いたアニメーション：メーガナ・ビシニア／話し声：マイナ・ビシニア／ラーガ（歌声）：ヴィッディヤ、作家蔵

三輪途道×ミルミルつながるプロジェクト

MIWA Michiyo×MIRU MIRU TSUNAGARU Project

三輪途道

彫刻家。1966年群馬県に生まれる。1994年東京芸術大学大学院美術研究科保存修復技術専攻修了。写実彫刻を中心に制作を展開。仏像制作の技術を生かし、作家の日常を木彫で表現する。特に土着性を重んじ自分の足元を掘り下げることが制作の核としている。50代前半で視力を失い、手の感覚だけで作品を制作し、「ふれて鑑賞する」展覧会を各地で開催している。近年の展覧会としては、「ヒューマンビーイングー藤野天光、北村西望から三輪途道のさわれる彫刻まで」（2024年、群馬県立館林美術館、群馬）、「はじまりの感覚」（2025年、アーツ前橋、群馬）に出品。「見えなくなっても美術館に行きたい」という想いを実現するために一般社団法人メノキを立ち上げ代表理事となり活動を展開している。



左 図 13 三輪途道 《醤油せんべい皿》 2022 年、脱乾漆・彩色、9×47.5×41cm、撮影：木暮信也



右 図 14 三輪途道 《しじみの家族 PAPA》 2020 年、脱乾漆・彩色、26.5×29.5×16.5cm

ミルミルつながるプロジェクト

「ミルミルつながるプロジェクト」は、五感を通して得た感覚を対話によって共有することで、感覚の違いの豊かさを知り、他者への共感を育み、さまざまな個性を持ったみんながつながる活動を推進することを目的としています。ミルミルつながるプロジェクトでは、群馬県の郷土かるたである「上毛かるた」を全盲の彫刻家・三輪途道（みわみちよ）が自身の新たな解釈で、みんなが繋がるためのコミュニケーションツール「みんなとつながる上毛かるた」として開発。見える人、見えない人、見えにくい人、「上毛かるた」を知っている人、知らない人、老若男女全ての人が共に触れて楽しめる「みんなとつながる上毛かるた」を使って活動を続けています。



一般社団法人メノキ

視覚障害当事者で彫刻家の三輪途道が友人たちと、視覚障害者と芸術文化をつなぐことを目的に 2021 年に立ち上げた。群馬県内の大学・美術館・企業・点字図書館などと協働し、障害のあるなしを越えて、芸術活動を楽しめるような環境を地域に作ることを目指して活動を続けてきた。ぐんまインクルーシブアート研究会を 3 年にわたって開催し、また、株式会社ジンズと、三輪代表の作品である「みんなとつながる上毛かるた」を使った「ミルミルつながるプロジェクト」を展開、当初の視覚障害者を対象にした活動から、障害のあるなしを越えて、さまざまな個性を持った多様な人たちが共に芸術文化を楽しむ環境づくりへと活動の幅を広げつつある。<https://menoki.org/>

2025/8/1

佐賀大学美術館 企画展「触れる、手繰る手つき」 広報用画像申込書

佐賀大学美術館広報担当 宛 FAX 0952-28-8215

ご希望の画像を記載ください。画像(JPEG)をメールにてお送りいたします。

*本展覧会の広報を目的とする場合に限り、ご提供いたします。

個人のブログへの掲載や鑑賞等を目的とする場合にはご提供できません。

*掲載にあたっては、キャプション・クレジット等を正確に表記してください。

希望番号	
------	--

媒体情報 *できるだけ詳しくご記入ください。

掲載誌：	
発行日：	発行元：
貴社名：	
部署名：	担当者名：
所在地：	〒
TEL：	FAX：
E-MAIL：	

【お問い合わせ】佐賀大学美術館 企画担当：五十嵐

〒840-8502 佐賀県佐賀市本庄町1 TEL:0952-28-8333 FAX:0952-28-8215

URL: <https://museum.saga-u.ac.jp/> EMAIL: sbj8333@mail.admin.saga-u.ac.jp

